

◆藤井千春氏の著「アクティブ・ラーニング 授業実践の原理」に学ぶ

58 学習活動に対する指導観

- ① 学習指導では、子どもたちに「わからせ、覚えさせる」のではなく、「わからなくさせ、考えさせ、判断させる」。
- ② 学習課題を個人で個別に達成させるのではなく、チームで取り組ませて達成させる。
- ③ 学習活動の成果として、子どもに知識・技能を習得させるだけでなく、自分の変容（成長）を自覚させる。

59 評価の直接性・具体性

「総合的な学習」の学習活動における評価は、現実の具体的な生活において、「世界や他者に対して、どのようなことを、どのようにできる自分になったのか」について具体的な自覚を子どもたちに生み出します。

60 「知的な気付き」に高めさせる必要性

「知的な気付き」とは、考えるための手がかりや材料として蓄積されている知識です。「気付き」とは、対象との相互作用を通じて心が動いたことです。「面白い!」「不思議だ!」「〇〇と似ている」など、五官を通じて得られた感覚に対して、思考が即座に大きく反応することです。「気付き」は探究の出発点になります。

61 「くらしのたしかめ」の意義

自分の生活での「経験の掘り起こし」をさせて意識化させるためには、語り合い、聞き合い、深め合うというように、他者の存在が必要になります。聞いて受け止めてくれる他者、また、自分の語りを引き出してくれる他者の存在を必要とします。

62 発言・発表者の発言内容を正しく理解しているかを確認する問いの投げかけ

- ◆「えっ? 今、〇〇さん、何て言った? 誰か聞いていた人いたら、『こんなことだよ』と教えてくださいませんか?」
- ◆「〇〇さんが、言いたいことわかる? 誰かもう少し詳しく教えてくださいませんか?」
- ◆「〇〇さんが、言った『~』という言葉の意味、どういう意味かわかる? 誰か説明してくれますか?」
- ◆「〇〇さんが言ってくれたこと理由、誰か『こうだからではないか』と説明できる人はいますか?」

63 「脱線的な盛り上がり」は、「本時のめあて」からは「脱線」であっても、学ぶことの本質的な筋道からは「脱線」ではない。

64 「わかってもらいたいーわかってあげたい」という関係の構築

アクティブ・ラーニングとは、子どもたちが相互に誠実な態度でコミュニケーションを試みるという知的努力を経験する学習活動。

65 生活指導との一体化

教師は、話し合い活動に関して、子どもたちが、みんなの納得できる合意に達するまでとことん話し合うことを尊重しなければなりません。すなわち、「わかってもらいたいーわかってあげたい」という参加者相互の誠実な態度に基づいて、参加者の間で粘り強く合意を形成していく過程を経験させることに、話し合い活動の教育的価値がある。

66 感覚（気付き）の伝達と感情（気持ち）の伝達

「わかってもらいたい」という自分の知的努力が、相手の「わかってあげよう」という態度で助けられて、そして、相手に「わかってもらえた」と実感したという経験を積み重ねることが必要。

67 「振り返りのストーリー化」

◆「どのようになって（混乱して）いたのを、どのように整理したの？」

◆「〇〇さんがそのような考え／気持ちになったのは、どのような理由からなのかな？」

◆「そのことを知って、自分の気持ちはどのように変わりそうですか？ また、そのように変わるのは、そのこと（事実や出来事）について、自分がどう考えるからなのでしょう？」

☞ 「振り返り」では、「次は」、自分は、どのような問題にどのように取り組み、どのようなことがわかりたいのかについて、ストーリーの続きを展望させることが必要。

68 物語としての濃密性

「振り返り」をさせることにより、困難なことに挑戦し、努力してそれを克服していくことのできる自分、また、様々な他者と積極的にかかわり合い、助け合って、他者と共に生きている自分、という意識を伴うアイデンティティを高めることができる。

「生きる力をはぐくむ」とは、「このようなアイデンティティを増大させること」

69 「よい授業」についての考え方

☞ 道徳性を感じる

アクティブ・ラーニングについて、研究授業で評価すべき「よい授業」とは、それぞれの子どもの個性的なよさ、持ち味、成長、可能性などが、子どもたちの言語や行為に具体的に表現されている授業。子どもの視点から言えば、全力で「問い、考え、判断」し、全力で友だちとかかわり合い、そのように全力で自分を表現できたと実感できる授業。

70 子どもに期待をかけること

「期待する」とは、教師や親などの願望の押し付けであってはなりません。「期待する」とは、その子どもなりに自己課題を達成していこうとする経験への支援なのです。（中略）

「不得手や苦手」には目をつぶり、その子に自分が「できること・やりたいこと」を見つけて、それに全力で努力・工夫して取り組み成功体験をさせることから始める。